校長室だより～燦燦～ №２９５

勉強不足

2021.2.16

「試験」について考えてみる。世の中には、様々な試験がある。その試験に挑む人によっても試験の意義は変わってくる。だが、試験には、ともすれば看過しがちな意義があるように思う。

人間というものは、どうしても自分がしなければならない事柄に対しては、たとえそれがどんなに嫌な事柄であろうと、またそのこと自身が、どれほど価値があると否とにかかわらず、常に全力を傾けてそれと取り組まなければならない。そして、それをやり抜くということが大切である。

試験には、人間的態度を鍛えるという要素がある。登山や遠泳、スポーツにおける合宿なども同様の意義があるように思う。どうやら試験に対して真剣に取り組めないような人は、いわゆる人生の真の勝利者になることは難しいようである。

「好きこそ物の上手なれ」よく聞く言葉である。やはり好きだということが何事も根本である。好きなことならば理屈抜きで続く。特に若い人は、自分の好きなものを見つけることが一番大事なのかもしれない。好きなものがないという若い人は、おそらくそれを見る、それに出会うチャンスが少ないのだと思う。一つの方向、分野だけでなく、もうちょっと広い範囲で物事を考え動いていけば、きっと何か好きなものが見つかるはずである。

今までは、食わず嫌いのように考えもしなかった分野が、意外といいと感じることもある。やったことがない分野でも、むしろ、やったことがないからやってみようかというくらいの好奇心、根性がないと、新しいこと、好きなことには、なかなか目覚めない。

先入観から「いや、これはだめじゃないか」という態度では何をやってもだめであろう。先入観を捨て、まず見て、まずやってみることが大事である。人生というものは、どれだけお金を儲けたかということよりも、どれだけ好きなことをやったかということのほうが、遙かに大きい価値があることのように思う。

人生の基礎形成期、すなわち人間の一生の土台づくりの時期はいつか。それは３０代だと考える。この３０代の１０年間を貫く最も重要な事柄は何か。「我以外皆我師」「われ以外みなわが師」ではなかろうか。吉川英治の言葉である。自分以外のものはすべて私の師であるという意味である。

確かに、心がけ次第で、自分以外の人たちすべてから、何かしらのことを学べると、４０代になってから気づいた。何気ない会話の中にも、ささやかな一言一行といえども、ときには読書などと比べて比較にならないほどに深刻な教訓になることがある。

私の１０代は勉強不足であった。これは主に試験勉強に関してである。２０代も勉強不足であった。これは試験勉強が半分、生き方についての勉強不足が半分である。そして、大事な３０代、やはり勉強不足であった。生き方について考えていなかった。後悔先に立たずである。

人間の値打ちというものは、その人が大切な事柄に対して、どれほど決心し、努力することができるかどうかによって決まるように思う。勉強不足のまま４０代になってしまった私だが、今までの遅れを挽回するが如く勉強を始めた。だが、基礎形成期、土台づくりの時期に、やるべきことをやってこなかった“つけ”は大きい。「若いときに流さなかった汗は、老いてから涙となる」